



とっとり

公益財団法人
鳥取県国際交流財団
Tottori Prefectural International Exchange Foundation
公益財団法人鳥取县国际交流财团

国際通信

No. 145
Mar. 2024

TOTTORI KOKUSAI TSUSHIN 鸟取国际通讯 · Bản tin quốc tế Tottori



表紙 Photo

令和5年度 鳥取県・バーモント州青少年交流事業(10/13-10/24)

2023 Tottori-Vermont Youth Exchange Program (10/13-10/24)

令和5年度 鳥取県・佛蒙特州青少年交流事業(13/10-24/10)

Năm 2023 (13/10 - 24/10) Chương trình giao lưu giữa thanh thiếu niên tiểu bang Vermont - Tottori

目次 Contents / 目录 / Mục lục

● TPIEFだより	
主な事業の開催状況	
● 「Tottori×Vermont 高校生交流 4年ぶりにバーモントへ!」	02
● 通訳ボランティアスキルアップ講座	03
● 医療・コミュニティ通訳ボランティア講座〈応用編〉	
● 鳥取県外国人相談関係機関連絡会議	04
● 思いを育む日系ブラジル研修員の郷土芸能	
● 第35回(2023年度)タイムフェスティバル	05
● くらよし国際交流フェスティバル2023	
● 特集 ボランティア活動紹介	06
● われら“鳥取人”	07
● JICAデスクより	07
● 英語版・中国語版・ベトナム語版 ダイジェスト	08-09
Information in English, Chinese and Vietnamese 英文版・中文版文摘・越語版 Bản tóm tắt bằng tiếng Anh-Hoa-Việt	
● 賛助会員募集のご案内	10
● 本所の利用時間のお知らせ	10

主な事業の開催状況

TPIEF Tottori×Vermont 高校生交流 4年ぶりにバーモントへ!

鳥取県・バーモント州青少年交流事業(派遣) 期間:2023年10月13日(金)~24(火) 12日間

応募者21校21名から選抜された8名の高校生が米国バーモント州で交流を行いました。現地の高校生の家庭にホームステイをしながら、学校体験や野外調査、環境に関する視察先等を訪問し、実体験から互いの理解と"つながり"を深めました。



生徒の声

- 一緒に行く仲間に出会えてよかった!刺激をもらい、価値観をシェアし、心の支えになった。
- 自分からどれだけ積極的に質問をするか、どれだけ行動的になれるか…成長の鍵は意欲!

高校体験

滞在先のホストブラザー/シスターが現地の高校生パートナー。高校体験の日はパートナーの一日を丸ごと体験。まるで影(shadow)のようにずっと一緒に行動するため、この活動をシャドウイングと呼んでいます。



▲ショッピングモールを再利用したバーリントン高校の仮校舎

化石燃料ゼロ発電!

バーリントン市の電力は100%クリーンエネルギーで賄われています。達成するために最も重要なことは何かと、生徒がワインバーグ市長に尋ねました。その回答は「政治的決断」。



▲市電力局で市長と意見交換

この派遣では、自然環境と社会環境について、日ごろ興味や関心のあるテーマを生徒自身が設定し、探求活動も実践。現地でどのように疑問点を掘り下げ何を学んだか、様々な体験や人との出会いから得たこと、地域の持続可能な社会づくりのためにこれから何ができるのか…生徒それぞれの報告は『派遣生徒レポート』(ホームページ掲載)をご覧ください。

▶ 派遣生徒レポートはこちら ▶



現地受入団体:Green Across the World(GATW) 現地協力校:バーリントン高校、エセックス高校 ※派遣事業は2009年度に開始され、通算12回目。(今年度は鳥取県立鳥取西高等学校「SSH米国海外研修」のバーモント州への派遣時期が重なり、目的を同じくする活動について、行動を共にしました。)

生ごみの堆肥化は義務

キーワードは「コンポスト」(堆肥または堆肥をつくる容器)。生徒たちは家庭で、学校で、街中で生ごみの扱いに目を光らせました。生ごみはどのように集められ、どこでどれだけの期間で微生物分解される?臭いは?ホームステイ先では家庭での取り組みを、固形廃棄物収集所ではその仕組みを学びました。



▲校内のリサイクルコーナー

▲コンテナに生ごみを移す機械(特注)

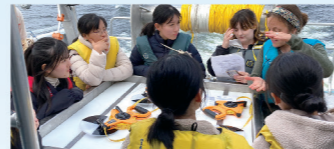
自然の中で五感をフル稼働

森林の中を歩くときは一列で。人間は野生動植物の生息地にお邪魔しているだけ。枯れた樹木や枝、動物の足跡や排泄物などの移動軌跡も情報の宝庫。生態系や自然と人間の適度なかわり方を知りました。



▲Keeping Track

調査船メロサイラ号に乗り、北米の風を感じながらシャンブレイン湖上で水生生物観察と透明度計測をしました。



▲透明度板の取扱説明を聞く

TPIEF 通訳ボランティアスキルアップ講座

2024年2月3日(土) 県民ふれあい会館(鳥取市)&オンライン

2025年に世界陸上東京大会の開催が決定し、ジャマイカの陸上選手団が鳥取県で事前キャンプを行う予定のため、選手・関係者を迎えるおもてなしの一環として通訳ボランティアに活躍していただくことを念頭に、今回は「ジャマイカ」にフォーカスして開催しました。

まず、ジャマイカ出身ALTのシャフナ マッケンジーさんが母国の歴史や文化、そしてジャマイカ国民にとってアスリートはとて尊敬される存在であること等をわかりやすく説明され、その後シェリー メガリーさんが通訳にとって必要なこと(メモ取りや事前準備の大切さ、相手に失礼のないように気を付けること等)について、実践を交えて話されました。



▲通訳にとって必要なことをシェリー メガリーさんが説明

鳥取県ではジャマイカの方が話す英語を聞く機会は少ないですが、YouTubeを活用して慣れることの大切さを実感された方、活動へのモチベーションをアップされた方も多く見受けられました。



▲ジャマイカの歴史や文化を説明するシャフナさん



▲参加者同士で通訳内容を確認

県スポーツ課より

Team Jamaica is back! 今回の講座は、そんな熱気に包まれていました。前回2015年世界陸上キャンプの際に通訳として従事いただいた方も多く、シェリー=アン・フレイザー=プライスが気さくだったこと、彼女が世界陸上本大会で金メダルを取って感激したことなど、会場で思い出話を聞かせていただきました。キャンプ通訳の醍醐味はきっとそういうところにあるのでしょう。

通訳ボランティアの方々のホスピタリティなくして事前キャンプ成功はありえません。皆で選手をサポートし、感動を分かち合いましょ!



TPIEF 医療・コミュニティ通訳ボランティア講座<応用編>

2023年12月10日(日)
米子コンベンションセンター&オンライン

- 内容
- 「医療制度と病院のしくみ」
(県立中央病院 医療ソーシャルワーカー 森次 奈穂美氏)
 - 「通訳に必要な技術とトレーニング方法」
(フリーランス翻訳・通訳 澤田 晶子氏)

講義では「医療制度」と「通訳技術」に焦点を当て、各専門分野でご活躍中の講師にお話しいただきました。また、実践を想定した通訳ロールプレイも行いました。通訳ロールプレイは日ごろ派遣依頼の多い内容で台本を作成し、講師が日本人と外国人の役を一人二役で進めながら、参加者が両者に通訳していくという方法で行っていきます。

参加された方々からは「緊張した」「難しかった」という声があがった一方、「勉強になった」「参加を続けたい」といった声も多く、皆さんの日頃からの努力や本事業に対する姿勢に改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。

通訳ボランティアに興味のある方、また通訳派遣依頼については、最寄りの財団事務所までご相談ください。



鳥取県外国人相談関係機関連絡会議

当財団の外国人相談窓口について、今後も確実な情報提供、また専門機関への適切な取り次ぎを行うために、県内の相談関係機関の支援ネットワーク強化を図ることを目的とした鳥取県外国人相談関係機関連絡会議を開催しました。

会議は、広島出入国在留管理局境港出張所の西森上席入国審査官からの「外国人の受け入れに関する動き」についての説明、にほんごがくしゅうかい豊田代表からの「外国人とのコミュニケーション やさしい日本語を使って」と題した講義のあと、会議に出席の各関係機関からそれぞれ取組や課題についての説明が行われる非常に有意義なものになりました。

やさしい日本語 とは？

外国人にわかりやすいように配慮した簡単な日本語です。情報提供のためだけでなく、地域社会でのコミュニケーションにおける共通言語です。

(例)

- 土足厳禁 ⇒ 靴をぬいでください
- こちらに座ってください ⇒ ここに座ってください
- できないということはありません ⇒ できます



思いを育む 日系ブラジル研修員の郷土芸能

みなさん、後世に残したい鳥取の郷土芸能はなんですか？と聞かれたとき、どんな郷土芸能を思い浮かべるでしょうか。いよいよ3月に帰国するブラジル研修員が、自らのルーツが鳥取県にあることを誇りに思い、郷土芸能(淀江さんご節 壁塗り)の習得に励んでいます。

また、ブラジル日系社会の世代交代が進むなかで、古き良き日本文化を継承していくことも研修員にとって大きな役割となっています。日本に興味・関心を持ち、「ちょっと好き」だった気持ちは、鳥取県で暮らし、学び、知り合いも増えることで「もっと好き」に変化し、ブラジルに帰国し、日本もしくは鳥取県をみた時「ずっと好き」でいられるための楽しい体験が郷土芸能を受け継ぐ上でも大切なことかもしれません。郷土芸能の練習を通して、淀江さんご節保存会のみなさんや宇田川青少年育成会の子どもたち、地域の方々との交流は、お互いにとって新たなつながりにもなりました。



▲芸能交流会で壁塗りを披露するブラジル研修員

海の向こうのブラジルでは、日本文化の祭典「日本まつり」が開催され、鳥取の郷土料理の紹介や郷土芸能を披露するなど、ブラジル研修員の活躍が期待されます。



▲三味線を体験 鳥取県ブラジル交流推進事業 海外技術研修員 ムラノヤノヨハンエイジさん(左) レイテコチアゴユツさん(右)

さんご節「壁塗り」とは？

軽快なテンポに合わせて、弟子が泥を練り、親方に泥を投げて土壁を塗り上げる情景をユーモラスに演じる郷土芸能のこと。

※米子市指定無形民俗文化財 淀江さんご節(米子市ホームページより)▶



令和5年度

主な事業の開催状況

第35回(2023年度) TPJEFタイムフェスティバル

2023年11月23日(木・祝) とりぎん文化会館



エチオピアのダンス

35回目をむかえたタイムフェスティバルは、「世界はジグソーパズル-あなたのpiece(ピース)で世界のpeace(ピース)を」をテーマに開催しました。



▲留学生によるスイスの紹介とドイツ語の絵本の読み聞かせ

笑顔あふれるエチオピアやインドネシアのダンス、スーダンの紹介などパフォーマンス9団体、ガザ・チャリティ・ブース、ベトナム料理やインド料理、中国、バングラデッシュなど23団体が出展し、いろいろな国の文化や料理を堪能し、異文化理解を深めました。

また、民族衣装の試着や、留学生による多言語絵本の読み聞かせも大盛況で、たくさんの学生ボランティアも積極的に国際交流を楽しみました。参加者の願いを書いたピースで作ったジグソーパズルには「世界中の子どもたちが笑顔になれるように」など、平和への願いが多く見られました。

くらし国際交流フェスティバル

～ 2023年11月12日(日) 伯耆しあわせの郷 ～

今回のくらし国際交流フェスティバルは、新しい団体も加わり、パワーアップして開催しました。数年ぶりに会場内での飲食が可能になり、食べ物ブースで買った品物を食べながらステージパフォーマンスを見るなど、コロナ前に戻ったような様子が見られました。



大好評だった韓紙マグネットづくり



民族衣装で司会を楽しむ学生のみなさん

毎年多くの親子連れが来場されますが、今年は例年よりも外国出身者の姿も多く見られ、各ブースや来場者と交流している姿を見かけました。このフェスティバルで知り合った方々の横のつながりが今後につながっていくことを願いながら、来年もさらに多くの方々に楽しんでいただけるフェスティバルを開催したいと思っています。

今年も開催

県内で開催される国際交流フェスティバルのご案内

よなご国際交流フェスティバル2024

〈日時〉10月6日(日) 〈会場〉米子市文化ホール

くらし国際交流フェスティバル2024

〈日時〉11月10日(日) 〈会場〉伯耆しあわせの郷

第36回(2024年度)タイムフェスティバル

〈日時〉11月24日(日) 〈会場〉とりぎん文化会館